

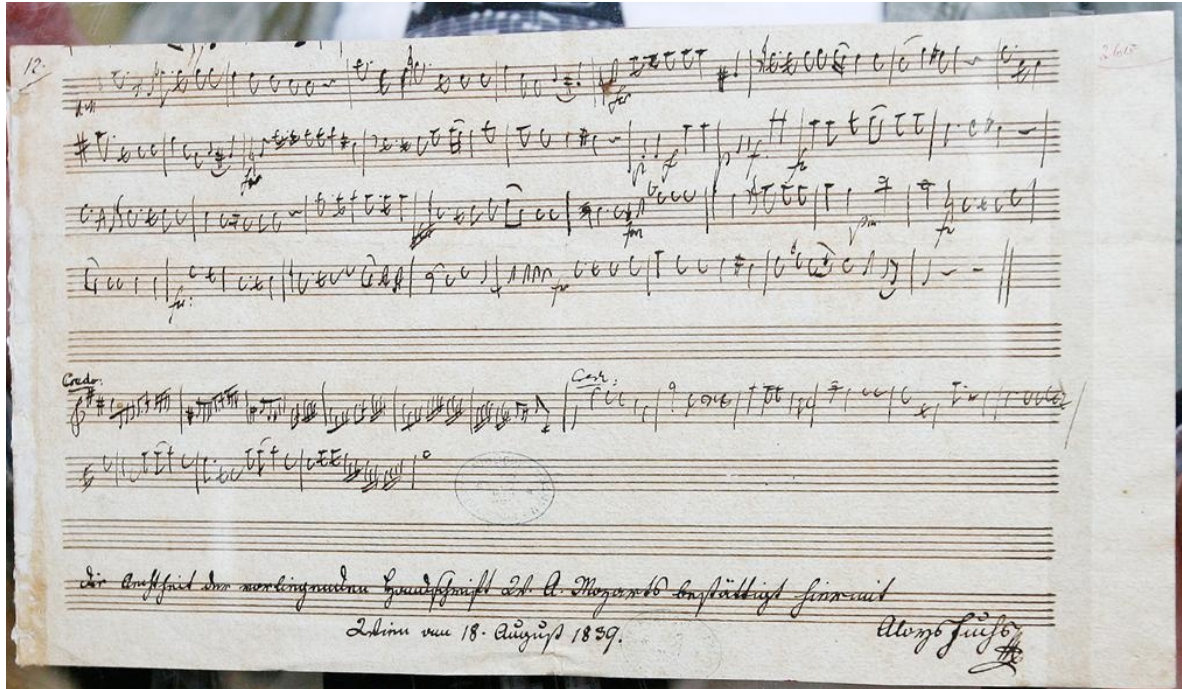
モーツァルトの真作はどれだ

(神戸モーツァルト研究会 第203回例会)

野口秀夫

1. モーツァルトの自筆楽譜発見

仏西部ナントの市立音楽資料館(la Médiathèque de Nantes)で、モーツァルトの未発表曲と見られる手書きの楽譜が見つかったと2008年9月18日に地元紙プレス・オセアン(Presse-Océan)が伝えた。



発見されたモーツァルトの自筆楽譜 (16cm x 29cm)

モーツァルト・フォーラムに投稿されたニール・ザスローの報告^{注1}によれば実際には何ヶ月も前に発見されており既に新モーツァルト全集研究主幹(Leiter der Arbeitsstelle)のウルリヒ・ライジンガー(Dr. Ulrich Leisinger)が調査に入っていた。筆跡は間違いなくモーツァルトのものである。一葉の上部はカットされており、おそらく3段の五線が切り取られているものと思われる。片面のみにスケッチの形で記入されており、曲の主たる流れが一声部のみで書き留められたいわゆる『書きかけの草稿』である。一つ目の『作品』は器楽伴奏を前提とした声楽曲であるが歌詞はない。二つ目の『作品』もまた器楽伴奏を前提とした声楽曲であり、クレドと書かれ、合唱の入りも明示されている。1曲目はしたがってグロリアの最終部分であろう。これらのスケッチは従来知られているモーツァルトの如何なるミサ楽章(その他の声楽曲も含め)にも関連しない。ありうるのはモーツァルトが生涯の最後の3~4年に書いたミサ楽章の断片の間に位置するものであろうということである。

また、ワシントンポストはライジンガーが昨年調査に入っていたとして、用紙に関してモーツァルトが1787年以降に使ったものであると紹介し、さらにR・レヴィンの話として1曲目が二短調、2曲目が二長調であること、そして最下部にアーロイス・フックスの手で「この筆跡がW. A. Mozartのものであることを確認した。1839年8月18日、ヴェーン」と書かれていることなどを3人の記者の協力を得てかなり正確に報告している。

なお、来年のラ・フォル・ジュルネで初演するとの報道もある。

国際モツァルテウム財団のホームページ^{注3}によれば、この1葉はナントの市立図書館のLabouchère Collectionから発見された。15小節のクレド 二長調のメロディスケッチと32小節の二短調の声楽スケッチが書かれており、後者は明らかにモーツァルトがミサのキリエを計画したものである。1791年4月にモーツァルトがシュテファン大聖堂の楽長助手を申請していたことを考慮に入れるとこの発見は重要である。モーツァルトのまったく知られていなかった作品が発見されることは極めて稀である。図書館の厚意によりこの1葉は2009年発行の追補(X/31/4 Nachträge, Ulrich Konrad編)^{注2}にファクシミリと清書譜が載せられる、とのことである。

そうは言っても早く聴いてみたいのが人情である。海外の動画サイトにはクレドの冒頭部分をチェンバロで演奏した映像がアップされている^{注4}が、全容が分かる音楽情報を入力できるサイトは今のところ産経ニュースサイトの上記写真^{注5}のほかにはないようである。

そこで以下のとおり早速採譜してみたが、モーツァルトの修正によると思われる意味不明の箇所がいくつかあり勝手に判断したところがあるので、皆様のご指摘を俟ちたい(特にクレド <http://www.hi-net.zaq.ne.jp/buasg502/credo.pdf>)。なお、歌詞を推定で付記した。

ご参考用に MIDI ファイルも準備した。

Kyrie in d minor MIDI: <http://www.hi-net.zaq.ne.jp/buasg502/nantes-1a.mid>

Credo in D major MIDI: <http://www.hi-net.zaq.ne.jp/buasg502/nantes-2a.mid>

Kyrie in d minor

1 Ky - ri e, Ky - ri-e e - lei - - - son. Ky - ri-e, Ky - ri-e e - lei - - - son.

2 Ky - ri-e e - lei - son. Ky - ri-e e - lei - son, e - lei - - son. Ky - ri-e, Ky - ri-e e -

3 lei - - - son. Ky - ri-e e - lei - son. Ky - ri-e e - lei - son, e - lei - - son.

4 Chri - ste, Chri - ste, Chri - ste, Chri - ste, Chri - ste e - lei - son, e - lei - - son.

5 Chri - ste, Chri - ste e - lei - - - son. Chri - ste, Chri - ste Chri - ste e - lei - - son.

6 Chri - ste, Chri - ste e - lei - son, Chri - ste e - lei - son. Chri - ste, Chri - ste e -

7 lei - son, e - lei - son. Ky - ri-e Ky - ri-e Ky - ri-e e - lei - - son. Ky - rr - e

8 e - lei - son. Ky - ri-e e - lei - - - son, e - lei - - - - - son.]

2. パントマイム《レ・プティ・リアン》のためのバレエ音楽 K.299b

フランスの有名な舞踏家ノヴェール (Jean Georges Noverre, 1727-1810) は 1767 年からウィーン宮廷の花形舞踏家として活躍していた。そしてモーツァルトは 1771 年ミラノでの《アルバのアスカーニオ》上演の折、1773 年のウィーン訪問の際に知り合った。ノヴェールは 1776 年頃にフランスに戻り、マリー・アントワネットの庇護を受けて、パリのオペラ座の首席舞踏家となった。ノヴェールの娘ルイズ・ヴィクトワール (Louise Victoire, 1749-1812) は 1768 年にウィーンで富裕な商人ヨーゼフ・ジュナミ (Joseph Jenamy) と結婚し、76 年末か、77 年初頭に、ウィーンからパリに向かう途中でザルツブルクに立ち寄り、モーツァルトが彼女のためにピアノ協奏曲 変ホ長調 K.271 を作曲したと考えられている。モーツァルトは 1778 年にパリで彼らと再会したのである。

このバレエ音楽は既に 1768 年アスプルマイヤー (Franz Asplmayr) の作曲でノヴェールがウィーンで上演している。ノヴェールは再演するにあたってモーツァルトに新たに作曲を依頼した。モーツァルトはパリではオペラを作曲するつもりであったが叶わずこの仕事を引き受けることになったのである。初演は 1778 年 6 月 11 日。ピッチンニのオペラ「偽りの双子の娘 Le finte gemelle」の幕間に上演された。ノヴェールの作品として出版されたが、長いあいだ忘れ去れていた。それが、ヴィルデル (Victor Wilder) によって 1872 年パリ・オペラ座の蔵書の中から写譜が発見されたものである。

台本が紛失しているので詳しい内容は分からないが、当時のバレエ音楽の典型であるアルカディア風のパストラレ。すなわち、当時の新聞によれば、次の 3 つのエピソードから成っている。第 1 話は愛の神が鳥かごに捕らえられる話、第 2 話は目隠し鬼ごっこの話、第 3 話は愛の神の悪ふざけによって、若者に変装した娘に羊飼いの娘が恋をする話。

モーツァルトの手紙によれば「... そのうち 6 曲は他の人の手になるもので、これらは貧弱なフランスのエール・サンフォニー、コントルダンスから成るにすぎないものですが、ぼくはこのために結局 12 の曲を作りました...」とあり、全曲をモーツァルトが作曲したわけではない。しかし、残っている写譜が 1778 年当時の曲構成をそのまま反映しているとは限らず、むしろ後の上演のために再構成されたものである可能性のほうが大きいので 12 曲を抽出してモーツァルトの作であるというのは成り立たない。

写譜として残っている序曲を含む 21 曲のバレエ音楽のうち、旧全集およびケッヘルは 14 曲を真作としてあげていた。しかし新全集では 8 曲を真作、7 曲を他人の作、残り 6 曲を疑わしい作としている。これらは様式上の推測に基づいている。

21 曲すべてを録音している CD はまだ発売されていないため、1982 年 1 月 29 日のモーツァルト週間におけるラルフ・ヴァイケルト指揮モツァルテウム管弦楽団の演奏による FM 放送録音を聴いた。下表が例会出席者の判定の集計である。

No.	曲目	真作	不明	偽作	No.	曲目	真作	不明	偽作
-	Ouverture	57%	29%	14%	11	Larghetto	44%	33%	22%
1	-	14%	71%	14%	12	Gavotte	67%	22%	11%
2	-	78%	22%	0%	13	Adagio	33%	44%	22%
3	-	78%	22%	0%	14	-	33%	44%	22%
4	-	56%	44%	0%	15	Gavotte gracieuse	44%	56%	0%
5	Agité	67%	0%	33%	16	Pantomime	89%	11%	0%
6	Menuet	25%	50%	25%	17	Passepied	56%	44%	0%
7	Largo	33%	44%	22%	18	Govotte	44%	56%	0%
8	Vivo	89%	11%	0%	19	Andante	44%	44%	11%
9	Andantino	67%	33%	0%	20	Gigue	44%	44%	11%
10	Allegro	33%	56%	11%					

(2008 年 10 月 3 日作成、2008 年 11 月 3 日改訂)